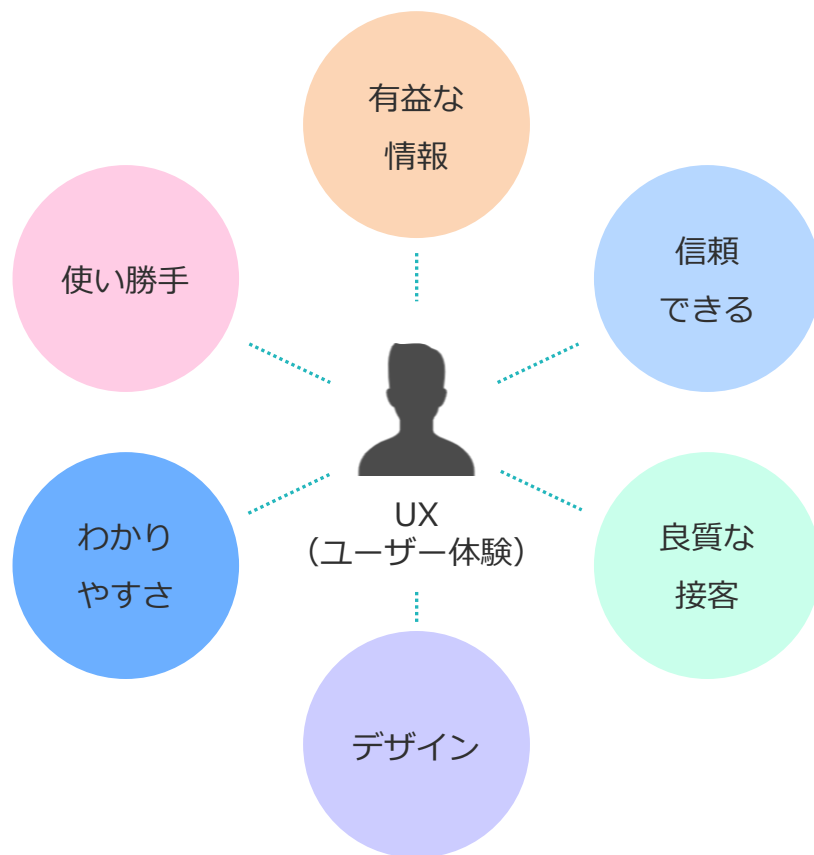


財政検証ホームページデザイン等のリニューアル

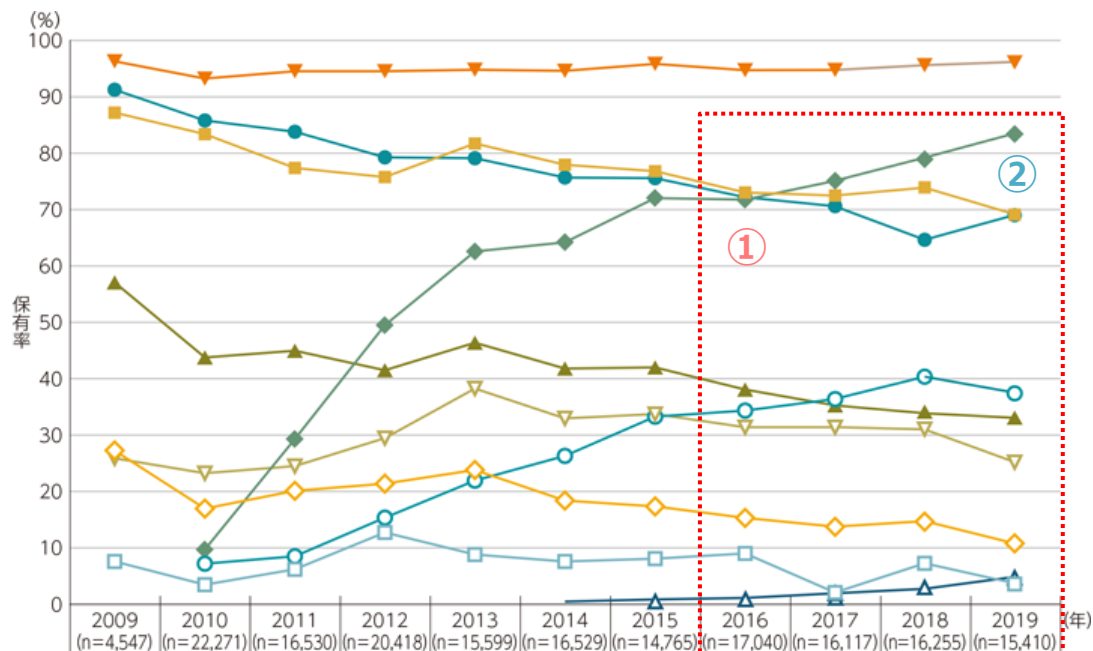
2021年9月30日(木)

UX指標と本サイトの照らし合わせ



対象となるWEBサイトには、老若男女様々なユーザーの訪問が想定されます。どのようなユーザーにも満遍なく情報を伝える必要があるため「使い勝手」「わかりやすさ」「デザイン」といった指標は設計時に特に重視すべき事柄となります。

情報通信機器の世帯保有率の推移



① 2016年にはスマートフォンとパソコンの保有率がほぼ同じ数値に。

② 直近の2019では、それまで「PC>SP」だったシェアをスマートフォンが大きく引き離す状態に。

情報通信機器のスタンダードとして、スマートフォンが最上位。ここからスマホユーザーフレンドリーなサイト設計も必要と考えられます。

公開中webページ ヘッダーエリア (PC / SP)

Webサイトのホームとなる、ヘッダーエリア。

現状ではページスクロールに合わせて、画面の外へと消えていく仕様。

ヘッダーに搭載している情報の殆どがマンガへの導線となり、Webサイトのナビゲーションとして機能しているとは言い難い。

公開中webページ マンガの見出しエリア (PC)

本サイトの核の一つとなる、マンガの見出しエリア。

現行のページではテキストのみが並んでいるため、

マンガページへのクリックできる領域が狭い。この点からクリック領域を広げることで、より使い勝手の良いTOPページにすることが可能。

また現状では目次の大半をテキストで占めていますが、ビジュアル要素を追加することで視認性の向上が望める。



公開中webページ マンガの見出しエリア（SP）

SPページでもテキストリンクのみタップが可能、かつ**すべてのテキストが左揃え**となっている。

テキストリンクの上下の間隔も詰まっていることから、ページを閲覧するユーザーの端末によっては、操作性に難があると考えられる。

（特に右利きユーザーの場合、ユーザーによって片手の操作では厳しいことも予想される。）

公開中webページ リンクバナーエリア（SP）

リンクバナーのエリアは、SP表示の際に3つのバナーが横一列となる。

このレイアウトの場合、バナーが小さいため、バナー内のテキスト視認性の低下。また閲覧するユーザーの端末によってバナータップの操作性の低い。

- 1.ヘッダーにサイト内のリンクを集約させ「HOME」の役目をもたせる。
- 2.マンガの目次にビジュアル要素を追加し、クリック/タップ領域を広げることで視認性と操作性を向上させる。



公開中webページ サイドバーエリア (PC)

現行サイトではTOP以下の階層では、サイドバーが出現します。

このことから下層ページのメインとなる、**コンテンツを紹介するエリアが縮小**。特に本件の核となるマンガのページでは、サイトのメインコンテンツとなるマンガが縮小されてしまう状態となっています。

公開中webページ マンガエリア (PC / SP)

現行サイトではマンガのページ遷移が「スワイプ」「ボタンタップ」の2パターンとなります。

スマートフォンの場合、**スワイプだと端末によって操作エリアが微妙に異なる**。またボタンだと画面端にボタンを設置するため、**ユーザーの利き手の反対側のボタンがタップしづらい**。という点が挙げられます。

＊ボタンの操作性を向上させるために、ボタンサイズを拡大することでマンガにボタンが侵食してしまう懸念もあります。



公開中webページ

詳細情報エリア (PC / SP)

現行サイトではマンガ箇所をスクロールすると、詳細情報を紹介するエリアが出現。現行ページだと大半をテキストが占めるページとなっており、ひと目で目的とする情報を見つけづらい。

また長いページの場合、テキストの量だけスクロールを行わないとユーザーは知りたい情報にスムーズにアクセスしづらいということが予想されます。

1. サイドバーの情報をヘッダー等に分散、画面いっぱいに表示
2. マンガエリアの操作を簡素にし、ユーザー毎での操作性の差を少なくする
3. テキストの量をコンパクトにし、目的とする情報に容易に辿り着けるようにする。

① 年金はどうして公的年金なの？

誰にでも「人生のリスク」に対応するためです

人生には、さまざまなリスクがあります。高齢になってくると、病気や障害で働けなくなったり、一人暮らしで生活が難しくなったり、など、想定外の収入を得られず生活が難しくなるリスクは、予想できません。そうした「もしものとき」に備えるため、生命保険や医療保険などに入る方、貯蓄をする方もたくさんいます。でも、その備えが「いつ」「どれだけ」「いつまで」必要なのかは、誰にも分かりません。誰にでも起こる可能性があるのに、すべての人が、あらゆる準備を準備して、十分に備えることは困難なのです。こうした「人生のリスク」にすべての人が備えられるよう、公的年金は国の制度として運営しています。

② 公的年金の種類

公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べて、以下のような特徴があります。

1. 生涯にわたって受給できる

人は、何歳まで生きるの予測できない。→ 将来で「いくら必要か？」を自分で予測できる

国でも、何歳まで生きるの予測ができません。老後に備えて貯蓄をしても、それを使い切ってしまう可能性もあります。逆に、老後の不安から退職後に過度な貯蓄をしようとする、若いときの消費が低くなってしまいます。老後の生活は、国で「いくら必要か？」を予測できる仕組みです。これによって、退職後に適切な貯蓄を行う必要がなくなりますし、なにより、長生きして生活資金がなくなるという事態に備えることができるのです。
- 2. 物価変動や賃金上昇など、経済の変化に比較的強い

50年後の物価や賃金の変動は予測できない。→ 将来の生活が予測されたままに受給できる

将来、急激なインフレや給与水準の上昇によって、貯蓄の価値がなくなってしまうかもしれません。また、緩やかな上昇であったとしても、次第に貯蓄の価値が下がってしまうことが起こります。公的年金は生活を支えるために、その後の経済状況に応じて「生活の必要に合わせた給付」を行っていきます。この「実質的な価値」について詳しくは、「日本の公的年金制度」をご覧ください。

現在の公的年金制度は、経済の変動による影響を軽減するための仕組みです。
- 3. 生活のリスクを減らす「一歩」の大きな役割がなくなったときに対応できる

いつ、障害を負ったり、子どもが小さいうちに配偶者を亡くすかもしれない。→ 障害や遺族年金を受給できる

突然の事故や病気などで障害を負ってしまうかもしれません。また、一家の大黒柱が小さな子どもと配偶者を残して亡くなってしまう可能性もあります。こうした事態に備えるため、公的年金は事故に備えるだけでなく、障害を負った人や遺族への保障も行っています。

③ 公的年金がフォローできる人生のリスクって？

公的年金は、大きく「老齢」「障害」「死亡（遺族に対する保障）」というリスクに備えています。

老齢基礎年金	障害基礎年金	遺族基礎年金
65歳から「国民年金」を受け取ることができる。普通、「年金」というときの老齢年金を指す	加入中、病気やけがなどで一定の障害を負った場合に支給される。また、2008年の障害法にも対応している	年金受給者や被保険者が亡くなったとき、配偶者（※）が原則18歳以下（※※）の子が給付を受けられる ※大が遺族基礎年金を受けられる ※妻が2008年4月1日現在の年齢が18歳になった年度の3/31まで

※より詳しい支給要件、給付水準や「国民年金」の内訳については、[日本の年金制度](#)のサイトをご覧ください

※ 日本年金機構

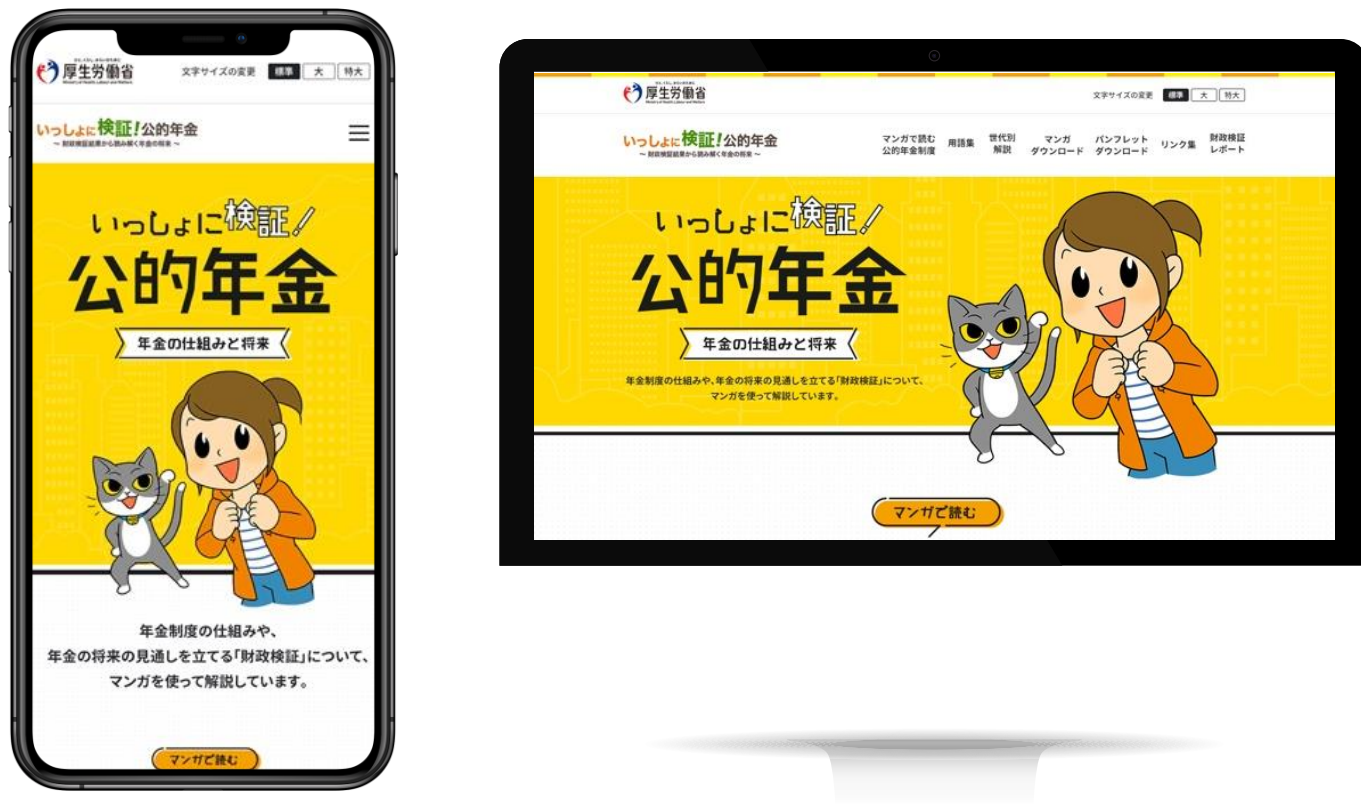
④ まとめ

- 公的年金は、生活することができない人々のリスクに備え、すべての人が安心して暮らせるように国の制度として運営しています

⑤ 財政検証の詳しい結果はこちら

財政検証結果レポート

本リニューアルにおける方向性



本件では以下の3つの要素を特に重視したUI設計を行います。

指標①

操作性

シンプルな操作性で
快適なサイト回遊

指標②

視認性

Webでスタンダードな機能を実装、
情報へのアクセスを容易にする

指標③

デザイン性

ユニバーサルデザインを踏襲した配色、
最小限の色数で操作情報を伝える

改修案

ヘッダーエリア (PC / SP)

本件の改修において、**サイト内のリンクは全てヘッダー内に集約**。

インターネットブラウザの画面上部に固定で表示されるよう実装、
ユーザーが画面をスクロールしてもメニューが追従することで、
本サイトにおけるホームとしての機能を担う。

改修案

マンガの見出しエリア (PC / SP)

マンガの見出しエリアは各話への導線となるパネルを配置。

現状よりクリックできる範囲が大幅にアップ、またテキストサイズも大
きくなり**視認性も飛躍的に向上**。

スマートフォン表示において

現状よりも視認性・可読性が向上。

またパネルが画面いっぱいに表示されることで、スマートフォンの課題
となる端末サイズごとで異なる操作性も解消。

PCデザイン



SPデザイン



改修案

マンガエリア (PC / SP)

マンガエリアについて、現行のサイドバーを廃止。

バーを廃止することでマンガを画面いっぱいに表示、エリアが広がることでマンガの視認性・可読性が向上。また漫画自体も情報をダイナミックに作り込むことが可能に。

別のページに遷移する際は、固定表示されるメニューバーによって目的の箇所に遷移することができる仕様とする。

また「マンガの先頭へ」「詳しい解説へ」という固定のアンカーリンクも用意するため、読み返し / 飛ばしが現状より容易に。

スマートフォン表示において

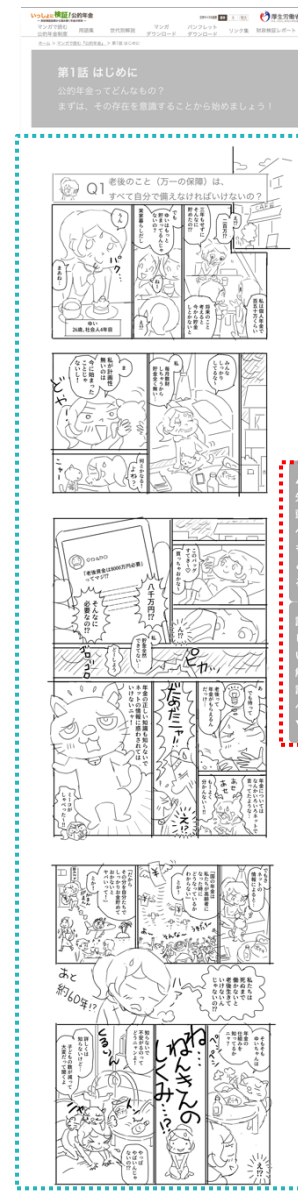
マンガの掲載については、全ページを縦並びに表示。

スワイプ・タップという操作を廃し、スクロールのみでの操作とすることでユーザーはマンガ閲覧に関わる特殊な操作への理解が不要。

また誤操作の確率も格段に抑えることが可能。

このことから、どのようなユーザーにもフレンドリーな設計となる。

PCデザイン



SPデザイン



改修案

詳細情報エリア (PC / SP)

マンガの補足となる詳細情報。

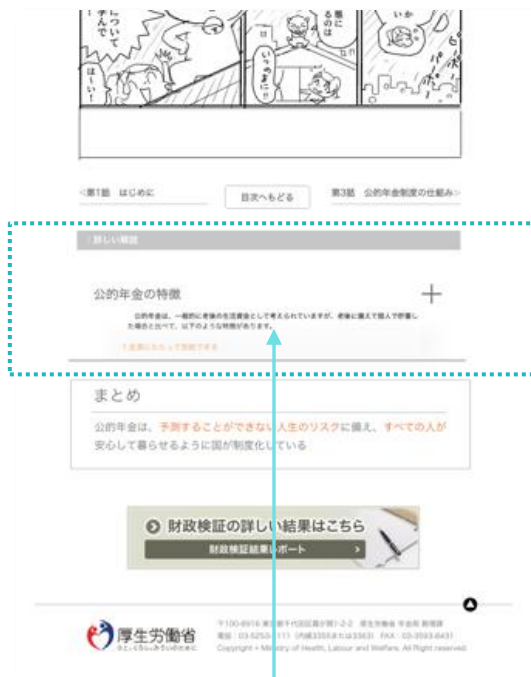
今回のリニューアルでは見出しと冒頭のテキストだけを初期表示としてアコーディオン機能を搭載します。この機能により初期表示では解説の見出しがINDEXのように整列、ユーザー毎に知りたい情報の検索が高速化。サイト再訪の際も、目的の情報へスムーズにアクセスできます。

スマートフォン表示において

表示領域がパソコンよりも狭いスマートフォンにおいて、アコーディオンの実装は上記の通り情報の検索性においてとても重要な要素となります。

スクロール量が多い場合、サイト離脱率が高まりますが、ページボリュームをコンパクトにすることでサイト滞在時間、回遊率の向上が見込めます。

アコーディオン機能_初期表示



アコーディオン機能_オープン表示



対象箇所の見出しを押下することで、
たたまれていた解説紹介が展開します。

本件で制作するWEBサイトについて、日本工業規格JIS X 8341-3:2016 AA 準拠を目標に制作します。

基本設定は、厚生労働省「特設サイトガイドライン」に準拠

色弱の方へ配慮したデザインをご提案（シミュレーターによるチェック）

2-1 OS/ブラウザ

動作保証対象となるOS及びブラウザは、最新のブラウザ普及率と厚生労働省ホームページのアクセス解析結果等を考慮し、発注者と相談の上決定してください。ただしアクセシビリティ及びセキュリティの観点から、以下の点に留意する必要があります。

- 対象外のOS/ブラウザで閲覧した場合も情報欠損が起きないよう、企業や団体によって構成されるWebの標準策定組織であるWorld Wide Web Consortium（ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム、以下、[W3C]）の規定するWeb
- 提供するアプリケーションを制するなど、情報セキュリティ

2-2 モニタ解像度

一般的なモニタサイズとされるWXGAを行ってください。特に、WXGAサイズの幅は940px以下としてください。

また、利用者がページにアクセスした際、推奨します。厚生労働省ホームページの配置場所やデザインについて決

2-3 レスポンシブデザイン対応について

厚生労働省ホームページは、利用者のデバイスに応じて最適な表示に切り替える技術（レスポンシブデザイン）への対応を平成30年7月時点でも約1,000ページにおいて行っています。今後も段階的にレスポンシブデザイン対応ページを増やしていくことを計画しており、特設サイト制作においても、レスポンシブデザインに対応することを求めます。

6.3.1 レスポンシブデザイン対応に際しての考え方

ホームページをレスポンシブデザイン対応するためには以下に示す点に留意してください。

- スマートフォンなど画面の情報量が少ないデバイスでも、多くの情報を抱える厚生労働省サイトから必要情報を見つけ出しやすく、使いやすい見た目とすること。
- パソコン向けサイトにもアクセス出来るようにすることで、全ての情報を漏れのないアクセスを可能にすること。
- レスポンシブデザイン対応ページと非対応ページが混在し、それらを行き来する場合でも違和感や迷いなく利用できるようなデザイン・使用感とすること。
- 標準的なPCモニタよりも小さな画面サイズや回線速度に配慮し、適切な時間で閲覧できる程度のコンテンツサイズとすること。

6.3.2 レスポンシブデザイン対応ページ作成時の基本制作要件

レスポンシブデザイン対応ページの作成を行う際は下記制作要件に従ってください。

a. 対応対象OS/ブラウザ

レスポンシブ対象となるOS及びブラウザは、最新のブラウザ普及率と厚生労働省ホームページのアクセス解析結果等を考慮し、発注者と相談の上決定してください。ただし、以下の点に留意する必要があります。

- 対象外のOS/ブラウザで閲覧した場合も情報欠損が起きないよう、ページ制作・更新を行った際は可能な限り実機でのチェックを行うこと。
- 対象としていたOS/ブラウザの新バージョンがリリースされた場合は随時チェック対象とすること。

b. ページ更新時の主なチェック内容

ページ制作・更新を行った際は、主に下記の点について各OS/ブラウザでチェックしてください。

- レイアウトが崩れなく、読み取れる表示、横表示にした場合も問題なく表示されること。
- パソコン向けページとレスポンシブデザイン向けページの利用による切替えが可能であること。
- ページ遷移時に表示モードが維持されること。

一般色覚



D型色覚



P型色覚



本件で制作するWEBサイトについて、以下のガイドラインに準拠したサイト制作を実施します。

「安全なウェブサイトの運用管理に向けての20ヶ条 〜セキュリティ対策のチェックポイント〜」 提供:IPA（独立行政法人情報処理推進機構）

■ウェブアプリケーションのセキュリティ対策

- ① 公開すべきでないファイルを公開していませんか？
- ② 不要になったページやウェブサイトを公開していませんか？
- ③ 「安全なウェブサイトの作り方」に取り上げられている脆弱性への対策をしていますか？
－「安全なウェブサイトの作り方」に取り上げられている「セキュリティ実装 チェックリスト」は確認済みですか？
- ④ ウェブアプリケーションを構成しているソフトウェアの脆弱性対策を定期的に行っていますか？
- ⑤ 不必要なエラーメッセージを返していませんか？
- ⑥ ウェブアプリケーションのログを保管し、定期的に確認していますか？
- ⑦ インターネットを介して送受信する通信内容の暗号化はできていますか？
- ⑧ 不正ログインの対策はできていますか？

■ウェブサーバのセキュリティ対策

- ① OSやサーバソフトウェア、ミドルウェアをバージョンアップしていますか？
- ② 不要なサービスやアプリケーションがありませんか？
- ③ 不要なアカウントが登録されていませんか？
- ④ 推測されやすい単純なパスワードを使用していませんか？
- ⑤ ファイル、ディレクトリへの適切なアクセス制御をしていますか？
- ⑥ ウェブサーバのログを保管し、定期的に確認していますか？

■ネットワークのセキュリティ対策

- ① ルータなどを使用してネットワークの境界で不要な通信を遮断していますか？
- ② ファイアウォールを使用して、適切に通信をフィルタリングしていますか？
- ③ ウェブサーバ（または、ウェブアプリケーション）への不正な通信を検知または、遮断していますか？
- ④ ネットワーク機器のログを保管し、定期的に確認していますか？

■その他のセキュリティ対策

- ① クラウドなどのサービス利用において、自組織の責任範囲を把握した上で、必要な対策を実施できていますか？
- ② 定期的にセキュリティ検査（診断）、監査していますか？

本件で制作するWEBサイトについて、以下のガイドラインに準拠したサイト制作を実施します。

安全なウェブサイトの作り方 改訂第7版 提供:IPA（独立行政法人情報処理推進機構）

■SQLインジェクション

- ① SQL文の組み立ては全てプレースホルダで実装する。
- ② SQL文の構成を文字列連結により行う場合は、アプリケーションの変数をSQL文のリテラルとして正しく構成する。
- ③ ウェブアプリケーションに渡されるパラメータにSQL文を直接指定しない。
- ④ エラーメッセージをそのままブラウザに表示しない。
- ⑤ データベースアカウントに適切な権限を与える。

■パス名パラメータの未チェック／ディレクトリ・トラバーサル

- ① 外部からのパラメータでウェブサーバ内のファイル名を直接指定する実装を避ける。
- ② ファイルを開く際は、固定のディレクトリを指定し、かつファイル名にディレクトリ名が含まれないようにする。
- ③ ウェブサーバ内のファイルへのアクセス権限の設定を正しく管理する。3-(ii)
- ④ ファイル名のチェックを行う

■クロスサイト・スクリプティング

- ① ウェブページに出力する全ての要素に対して、エスケープ処理を施す。
- ② URLを出力するときは、「http://」や「https://」で始まるURLのみを許可する。
- ③ <script>...</script> 要素の内容を動的に生成しない。5-(iii)
- ④ スタイルシートを任意のサイトから取り込めるようにしない。
- ⑤ 入力値の内容チェックを行う。
- ⑥ 入力されたHTMLテキストから構文解析木を作成し、スクリプトを含まない必要な要素のみを抽出する。
- ⑦ 入力されたHTMLテキストから、スクリプトに該当する文字列を排除する。
- ⑧ HTTPレスポンスヘッダのContent-Typeフィールドに文字コード
- ⑨ Cookie情報の漏えい対策として、発行するCookieにHttpOnly属性を加え、TRACEメソッドを無効化する。
- ⑩ クロスサイト・スクリプティングの潜在的な脆弱性対策として有効なブラウザの機能を有効にするレスポンスヘッダを返す。

■OSコマンド・インジェクション

- ① シェルを起動できる言語機能の利用を避ける。
- ② シェルを起動できる言語機能を利用する場合は、その引数を構成する全ての変数に対してチェックを行い、あらかじめ許可した処理のみを実行する。

■セッション管理の不備

- ① セッションIDを推測が困難なものにする。
- ② セッションIDをURLパラメータに格納しない。
- ③ HTTPS通信で利用するCookieにはsecure属性を加える。
- ④ ログイン成功後に、既存のセッションIDとは別に秘密情報を発行し、ページの遷移ごとにその値を確認する。
- ⑤ セッションIDを固定値にしない。
- ⑥ セッションIDをCookieにセットする場合、有効期限の設定に注意する。

本件で制作するWEBサイトについて、以下のガイドラインに準拠したサイト制作を実施します。

安全なウェブサイトの作り方 改訂第7版 提供:IPA（独立行政法人情報処理推進機構）

■ CSRF（クロスサイト・リクエスト・フォージェリ）

- ① 処理を実行するページを POST メソッドでアクセスするようにし、その「hidden パラメータ」に秘密情報が挿入されるよう、前のページを自動生成して、実行ページではその値が正しい場合のみ処理を実行する。
- ② 処理を実行する直前のページで再度パスワードの入力を求め、実行ページでは、再度入力されたパスワードが正しい場合のみ処理を実行する。
- ③ Refererが正しいリンク元かを確認し、正しい場合のみ処理を実行する。
- ④ 重要な操作を行った際に、その旨を登録済みのメールアドレスに自動送信する。

■ クリックジャッキング

- ① HTTPレスポンスヘッダに、X-Frame-Optionsヘッダフィールドを出力し、他ドメインのサイトからのframe要素やiframe要素による読み込みを制限する。
- ② 処理を実行する直前のページで再度パスワードの入力を求め、実行ページでは、再度入力されたパスワードが正しい場合のみ処理を実行する。
- ③ 重要な処理は、一連の操作をマウスのみで実行できないようにする。

■ アクセス制御や認可制御の欠落

- ① アクセス制御機能による防御措置が必要とされるウェブサイトには、パスワード等の秘密情報の入力が必要とする認証機能を設ける。
- ② 認証機能に加えて認可制御の処理を実装し、ログイン中の利用者が他人になりすましてアクセスできないようにする。

■ HTTPヘッダ・インジェクション

- ① ヘッダの出力を直接行わず、ウェブアプリケーションの実行環境や言語に用意されているヘッダ出力用APIを使用する。
- ② 改行コードを適切に処理するヘッダ出力用APIを利用できない場合は、改行を許可しないよう、開発者自身で適切な処理を実装する。
- ③ 外部からの入力の全てについて、改行コードを削除する。

■ バッファオーバーフロー

- ① 直接メモリにアクセスできない言語で記述する。
- ② 直接メモリにアクセスできる言語で記述する部分を最小限にする。
- ③ 脆弱性が修正されたバージョンのライブラリを使用する。